

講習会に参加して



伏木海上保安部長
富山県沿岸排出油防除協議会会長
井野 真輝男

去る10月26日、富山県富山市（富山港）で開催された、漁場油濁被害救済基金（以下「基金」という。）主催の平成17年度油汚染防除指導者養成講習会（以下「講習会」という。）に参加する機会を得ました。

本講習会は、伏木海上保安部が主宰する富山県沿岸排出油防除協議会（以下「富山県排防協」という。）と、富山県漁業協同組合連合会との共催で開催されました。基金の講習会において、排防協との共催は、初めてとのことでした。

富山県排防協では、例年、その活動の一環として、講師を招いて油汚染防除に関する講習会を行っていますが、今年度は、秋の開催を予定していました。そんな折、基金主催の講習会が、ここ富山において開催されるとの情報入手し、会員が一部重複していることから、同様の講習会を繰り返し実施するより、抱き合わせで実施した方が、参加者にとっても負担が軽くなるとの思いから、話を持ちかけたところ、快くお引き受けいただき、実現の運びとなりました。

講習会は、座学と実演（室内、港内）からなり、しばし油防除から遠ざかっていた私にも、分かりやすく、ナホトカ号事故以来の新知识、新技術（教訓）も披露され、総じて油防除の現場において役に立つ内容でした。

なるほどと感じ入ったことは、油事故が発生した場合、相談に応じるので、対処をあれこれ悩まずに先ず一報をと、説明していたこと。もちはもち屋というところでしょうか。油防除には、関係者間において、共通の認識と知識が必要とのこと。これは、我々にとっては、縦割り行政の弊害をなくせとの耳の痛い話に聞こえました。

さて、基金の講習会は、今後も引続き開催されますので、この富山県方式が、全国の排防協でも条件を整えば実現できるものと思います。防災関係者におかれましては、一度お話をされてはいかがでしょうか。もちろん、基金では、もっぱら漁場に油汚染が発生した際の補償が主たる事業であります。しかし、油汚染の被害の防止、軽減の観点から、対象を漁業関係者に限らず、広く海で働く人々にまで及ぼし、油防除のより具体的な手法について、周知広報活動に力を注いでいるとの印象を強くもちました。この点があってこそ、今回の共催という形に発展したものと考えています。

終わりに、油濁事故では、冷や汗を含めていろいろと汗だくになること必定です。油防除は、いかに効率的に資材、人を運用し、被害を最小限に食い止めるかにかかっています。備え（資材などのハードと訓練や講習会や共通の認識などのソフト）を万全にして、憂えに対処できるようにしたいとの思いを強く持ちました。